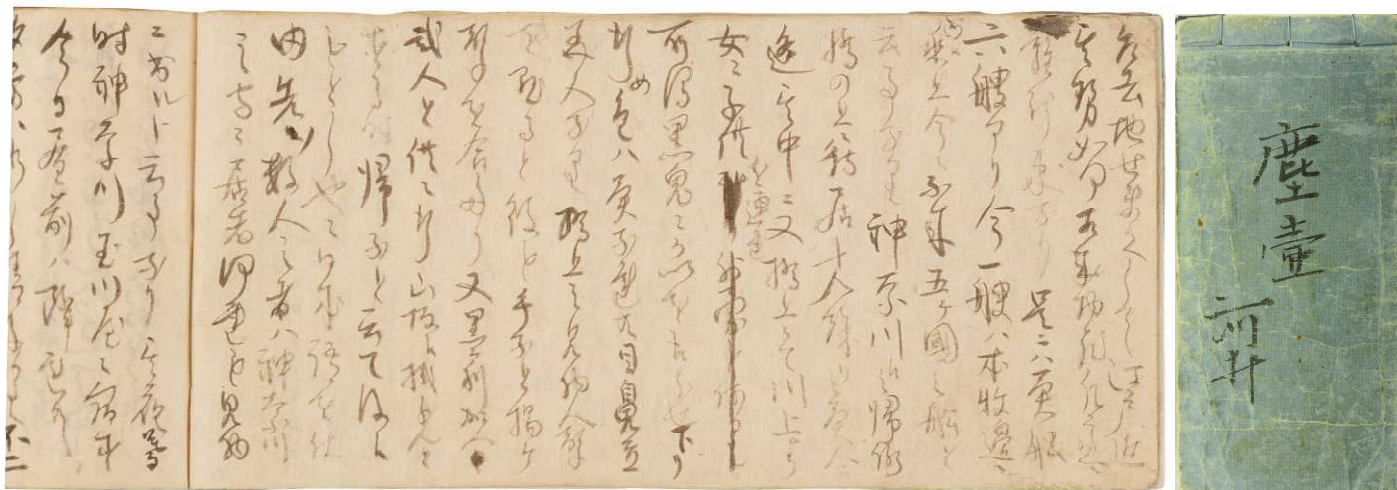


長岡あーかいぶ 第19号

編集・発行／長岡市立中央図書館文書資料室

http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=134

生誕120年 没後30年 反町茂雄氏と「反町茂雄文庫」



▲「塵壺」(河井継之助自筆日記)

▲「塵壺」表紙

安政6年(1859)6月7日の江戸出立から始まり、12月22日の備中松山で終了。継之助は生涯で2回遊学しますが、2回目の遊学を日記にしたためました。昭和58年に反町茂雄が長岡市に寄贈。

今年は、国宝・文化財級の歴史資料を数多く見出した古書業界の重鎮・反町茂雄氏の生誕120年・没後30年にあたります。反町氏は長岡に生まれ、10歳の時に上京、昭和7年(1932)に目録販売を主とする古書店・弘文荘を開業します。平成3年(1991)9月に亡くなるまでの半世紀以上、日本の古書業界を牽引しました。

反町氏は故郷長岡に総額3,000万円を寄附するとともに、掛軸・錦絵や古文書など、多くの郷土資料を寄贈しました。現在は、「反町茂雄文庫」として保存・活用されています。

～「塵壺」にまつわる思い出～

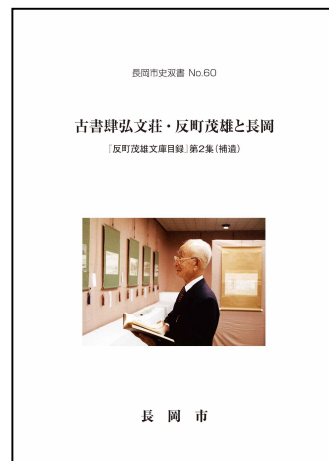
「反町茂雄文庫」の中から一点紹介します。令和3年7月公開予定の映画『峠 最後のサムライ』の主人公・河井継之助が記した旅日記「塵壺」です。「塵壺」が長岡市に寄贈されたのは昭和58年のことですが、これは偶然が重なった結果だそうです。昭和58年1月20日付「新潟日報」の記事に経緯が記されています。反町氏は前年11月に、「互尊文庫の郷土史料収集への援助の功」により新潟日報文化賞を受賞、長岡のために郷土資料を収集しようと改めて決意しました。このタイミングで、ちょうど「塵

壺」を入手できたので、長岡市に寄贈しました。仮に入手の時期が半年早かったら、他所に売ってしまっていたかもしれないとのこと。幸運が重なって、現在も長岡市が所蔵している「塵壺」。今後も長岡の宝として、しっかり後世に伝えていきます。

長岡市史双書 No.60

最新刊!**『古書肆弘文荘・反町茂雄と長岡』****『反町茂雄文庫目録』第2集(補遺)』**

反町茂雄氏と「反町茂雄文庫」の概要を紹介する歴史資料集。幼少期を過ごした長岡の記憶、互尊文庫で行った講演録などの著作、歴代図書館長宛書簡を紹介。また、『反町茂雄文庫目録』第1集(平成6年)・第2集(同7年)で紹介できなかった郷土資料の中から、古文書等の目録(補遺)を収録します。



頒布価格 1,500 円
B5 版・165 ページ

令和2年度の文書資料室

令和2年1月から国内で拡大した新型コロナウイルス感染症により、当室の業務も影響を受けました。

閲覧業務に関しては、県外からの利用の自粛を求めつつ、3月末日まで開室を続けました。令和2年度は4月2日より臨時閉室し、2回の期間延長を経て、5月12日13時に再開しました。



閲覧室の様子

再開にあたっては、感染防止対策として閲覧室の席数を8席から4席に減らし、職員用の机をビニールカーテンで区切りました。また、入口には消毒液を設置し、扉は常時開放することとしました。利用者に対しては、マスク着用や手洗いの励行はもちろんのこと、市外からの来室自粛、氏名・連絡先の記入、利用時間及び人数の制限等をホームページや掲示で要請しました（地域の制限は5月29日に緩和、6月19日に解除）。その後、閲覧用の机に飛沫防止パネルを設置し、現在に至ります。

行事に関しては、例年開催していた「長岡市史双書を読む会」及び長岡郷土史研究会と共催の「古文書のいろは」「古文書に見る長岡のすがた」の中止を4月に決定しました。また、新潟資料ネットとの合同作業や、長岡市資料整理ボランティアの行事も中止としました。

😊😊😊 活動15周年・長岡市資料整理ボランティア 😊😊😊

令和2年度の活動は、新型コロナウイルス感染症の対策を行い、9月からスタートしました。

事前申込のうえ人数を15名に制限、来館時の検温と、手指の洗浄消毒・マスク着用をお願いしました。テーブルや椅子・道具は消毒したものを使用し、適切な間隔の保持とこまめな換気を心掛けました。交流の場であったティータイムも割愛し、活動時間を短縮しました。

残念ながら毎年恒例の十日町市古文書整理ボランティアとの交流会と新潟資料ネット活動への参加は中止になりました。一方、新たに8名の方が加わり、緊張しつつも意欲的に作業をされていました。



入口での検温

【新聞資料整理班】

新聞資料整理は、全国紙から地方版と災害に関する記事を切り抜く作業を行いました。

全4回の活動にのべ34名が参加し、5紙47か月分を整理しました。持参の道具、あるいは文書資料室が用意した消毒された道具を使い、黙々と資料と向き合う資料整理は、時節に合ったボランティア活動ではないでしょうか。



新加入のメンバーにベテランメンバーが作業の手順を教えています

【古文書整理班】

昨年度に引き続き、古志郡村松村金子家文書のクリーニングと目録をとる作業をしました。

全4回の活動にのべ53名が参加し、年貢関係の横帳など約190点の整理を終えました。作業前に行っていたミニ古文書講座は休止となり、感染予防のため、いつもより静かな雰囲気でしたが、個々に作業を楽しんでくださったようです。



十分な間隔をあけて資料整理をしています

15周年：長岡市資料整理ボランティアの活動記録を「ひなぎく」で紹介

長岡市資料整理ボランティアの活動記録写真やボランティア通信などの関係資料81点を「国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）」で公開しています。ぜひご覧ください。

東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」 URL <https://kn.ndl.go.jp/>

「一樹神社」という神社をご存じだろうか。蒼柴神社に向かって参道を進んで行くと、小林虎三郎の碑の手前に、小さいながらも本殿と拝殿を備えた神社が建っている。

祭られているのは、橘三喜（みつよし）という人物である。橘三喜とはどのような人物なのか。彼を祭る神社が、なぜ蒼柴神社の境内に建てられているのだろうか。文書資料室所蔵の H3003「長岡藩士橘家文書」も参考にしながら、三喜と長岡とのかかわりも含めて紹介したい。



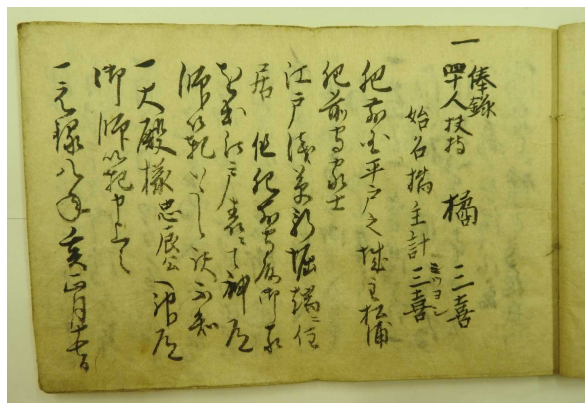
▲一樹神社拝殿。奥に本殿が見える。
拝殿の右隣は小林虎三郎の碑。

橘三喜と橘神道 橘三喜は神道家である。肥前国（長崎県）平戸に生まれた。平戸藩主松浦家の家臣であり、生家は藩主松浦家を祭る神社の社家であった。京都で吉田神道を修め、その後、江戸へ出て浅草新堀端に住む。「橘神道」なる一派を唱道し、多くの門人を抱えていた。その教えは垂加神道に近く、神道・儒教・仏教を折衷した独自のものであった（後に「橘家（きっけ）神道」として大成される）。

三喜は延宝 3 年（1675）から元禄 10 年（1697）の 20 年余りにわたり布教のために全国を回り、『一宮巡詣記』全 23 巻を著した。同書によれば、延宝 6 年には越後一宮弥彦神社を訪ねている。当時の神主高橋左近光頼は、三喜の教えに大きな影響を受けた。

橘三喜と牧野忠辰 長岡藩三代藩主牧野忠辰（ただとき）は、三喜から神道を学んだ。「一樹神社由緒」（『蒼柴神社誌』）には「忠辰公就テ学び、深く其ノ教ヲ信じ、賓客ノ礼ヲ以テ之ヲ招聘ス、居ルコト数年」と記されている。この一文からは、忠辰が三喜に深く傾倒していたことや、忠辰によって長岡に迎えられた三喜が、数年の間長岡に居住していたことが読み取れる。しかし、ここには年代の記載がない。

一方、H3003「長岡藩士橘家文書」No.10「家譜草稿」には、元禄 8 年に三喜が忠辰に神道を教授したことが記されている。



▲H3003「長岡藩士橘家文書」No.10「家譜草稿」（部分）

- 一、大殿様忠辰公へ神道御師範申上候
- 一、元禄八年亥正月十七日、神道奉伝受之由付、白銀二十枚御樽肴（たるごかな）被下候
- 一、八月十四日昼七ツ時より居宅へ被為入、夜八ツ時過御帰座（※）（後略）

8 月 14 日には忠辰が三喜宅を訪れ、午後から真夜中過ぎまで直々に神道を学んだという（※）。この後に続く記述には、彼は忠辰に七宝柄の木綿襷を差し上げて暇乞いをし、旅立ったとある。この資料から、彼の長岡在住は元禄 8 年前後数年の可能性が高いといえるだろう。

三喜は同 16 年に武州宮本村（埼玉県大宮市）の門人宅で客死した。「一樹霊神」の号を授与され、その地に廟が建てられた。三喜没後、忠辰は彼の家族を優遇し、長岡に住居を与え、高五〇石に取り立てている。

一樹神社 享和 3 年（1803）、彼の玄孫にあたる橘徳本は、忠辰を祭る蒼柴神社の境内に、三喜を祭る神社を建立した。徳本の勧進により文化 13 年（1816）に「一樹神社」の社号を贈られた。橘家文書には「於悠久山御社地之内一樹神社建立寄進帳」が残る。

「家譜草稿」の記述は文政 5 年（1822）で途絶える。橘家文書からは、その子孫は医学を志し、幕末には三島郡関原村に転居していたことが推測される。詳細は今後の研究に期待したい。

【主な参考文献】

- ・『蒼柴神社誌』（蒼柴神社社務所、昭和 2 年）
- ・岡眞須徳「橘三喜と桜井神道」
『長岡郷土史』第 22 号（昭和 59 年）
- ・同「桜井神道の大成者 高橋左近光頼」
『かみくひむし』第 89 号（平成 5 年）

《新たに公開した所蔵資料一覧》※寄贈・寄託順。保管場所の都合等で当日閲覧できない資料もあります。

- ・三島郡関原村砂山家文書(砂山商店文書) (近世・近代、80点)
 - ・三島郡関原村砂山家文書(砂山商店文書) (近世・近代、51点)
 - ・長岡市百間堤ガダルカナル島慰霊碑建設関係資料 (現代、4点)
 - ・長岡市東神田町鶴田家旧蔵 長岡国民学校教科書 ほか (近代・現代、18点)
 - ・長岡市東新町田中家旧蔵 16ミリフィルム ほか (近代・現代、12点)
 - ・古志郡内蔵王権現領中島今井家文書 (近世～現代、505点)
 - ・新潟日報ほか記事スクラップ (現代、9点)
 - ・長岡市台町酒井家旧蔵酒井光作成設計図 (近代・現代、6点)
 - ・古志郡長岡町米宿宮内家文書 (近世・近代、495点)
 - ・三島郡深才村小熊家旧蔵「長高新聞」・写真ほか (近代・現代、11点)
 - ・長岡市内各地文書ほか (近世～現代、67点)
 - ・長岡市地図 (市街地・地番図) (近代、2点)
 - ・栃尾大水害絵葉書ほか (近代、25点)
 - ・三島郡脇野町村長照寺文書 (近世・近代、5点)
 - ・長岡市内各種商店しおり・メニュー (現代、10点)
 - ・太刀川喜三収集文書 (近世、10点)
 - ・長岡商工会議所資料 (近代・現代、81点)
 - ・内山弘収集資料 (近代・現代、4点)
 - ・長岡市神田町田中家文書 (近代・現代、17点)
 - ・三島郡飯塚村(十楽寺) 榎家文書 (近世～現代、997点)
- (令和3年2月末日現在)

ホームページで目録公開、
職員がつぶやきます！

新たな情報発信

文書資料室ホームページに2つのコンテンツが加わりました。

1つ目は、目録公開です。文書資料室には、20万点を超える歴史資料が保管されており、その大部分について目録を公開していますが、文書資料室にお越しいただかなければ見ることはできませんでした。インターネット上での目録公開は、文書資料室所蔵の歴史資料を広く知っていただき、活用の機会を増やすことが狙いです。今後、準備が出来たものから順次公開す

る予定です。不定期ではありますが、確実に公開件数を積み重ねていきます！

2つ目は、「職員のつぶやき」です。職員が日々感じていることを自由につぶやきます。ルールは一切なし。何か思い付いた職員が勝手につぶやきはじめます。そんな職員のつぶやきのなかから、謎に満ちた！？「文書資料室」の生態を感じ取っていただければと思います。こちらも不定期の更新です。ぜひ、文書資料室ホームページに遊びに来てください！

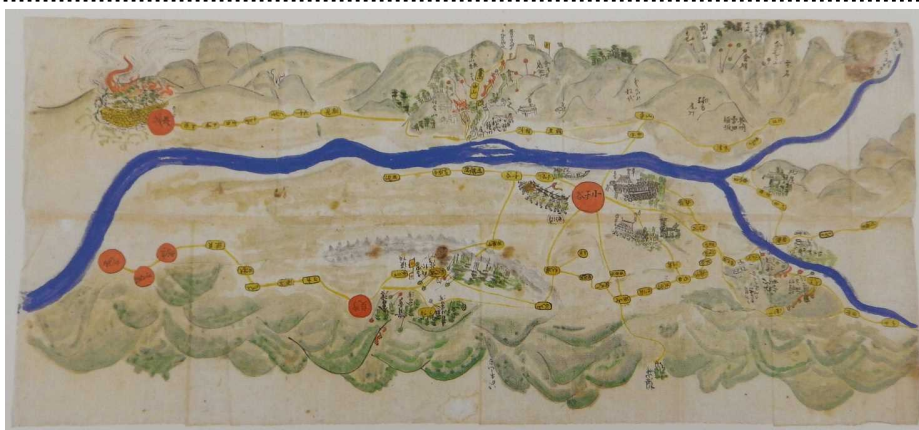
URL https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=134

災H2008

刈羽郡桐沢村青柳家文書

(ホームページで目録公開済)

村政資料・県立加茂農林学校関係資料・俳諧関係資料など地域の歴史を伝える資料が多数あります。一部が、長岡市史双書No.49『新潟県中越地震災と資料保存(2)』で翻刻・紹介されています。



▲No.2495「戊辰戦争 官軍 長岡戦へ」(年代・作者不詳)。小千谷を中心に描かれた絵図。

《編集後記》文書資料室は、引き続き新型コロナウイルス感染対策を講じつつ、歴史資料を守り伝えていく活動を行っています。重点的な活動は、①未整理資料の目録化、②行事の開催、③市史双書の発行、④ホームページ等による情報発信、⑤関係機関・団体との連携です。②は、古文書解説講座は長岡郷土史研究会と、長岡市史双書を読む会は県立歴史博物館、市立中央図書館の展示会と連携して開催予定です。⑤は、オンライン開催の情報交換会に参加しています。資料整理・調査のガイドライン、オンライン古文書解説講座、緊急事態宣言下の社会生活に関する記録の保存など、ウイルス禍においても、今だからこそ必要な歴史資料保全活動の動向を知る機会になっています。大勢の皆様にご支援いただき、開室23年目の令和3年度は、新しい文書資料室のすがたを模索していきます。(文書資料室長)

令和3年3月31日発行 編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室 TEL 0258-36-7832 FAX 0258-37-3754
〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町3-1-20 (長岡市立互尊文庫2階) E-mail: monjo@lib.city.nagaoka.niigata.jp